森も海も豊かな自然の再生願い

ドングリの苗作り

平塚の小学生ら体験

子供たちに森の役割を知ってもらおうと「いのちの森づくり教室」が一日、平塚市土屋の「進和職業センター」で行われた。施設利用者や小学生らがドングリのポット苗作りを体験し、森の大切さを学んだ。（小林　一登）

苗作りは、市内で知的障害者施設を運営する社会福祉法人「進和学園」（同市万田、出縄明理事長）が森林再生、学校や企業の緑化を目指し二〇〇六年から取り組んでいる。

同学園の敷地内で、施設利用者や家族会が秋に拾ったアラカシ、シラカシ、スダジイなどのドングリを箱にまき、芽が出て二十㌢ほどに育った苗をポットに移し替え、同市飯島の大型ビニールハウスを借り受けて育てている。〇八年度は約八万本の苗を栽培する計画で、二年ほどで出荷できるという。

この日の苗作りには施設利用者らに加え、近くの市立土屋小学校の六年生児童十八人が理科の授業の一環として参加。水の蓄え、光合成による地球温暖化防止の効果など森の役割や、土地にもともとあった常緑広葉樹を再生することの意義について施設担当者から説明を受けた。その後、グループに分かれて苗を一本ずつポットに移し替えていた。

同校教諭の二階堂潤さん（57）は、「生物と環境の授業の一環としていい体験活動となったと思う」と話していた。

育ったドングリの苗をポットに移し替える児童ら　＝進和職業センター

2008年（平成20年）7月2日　水曜日

神奈川新聞